

各主体の事例から得られた知見～学びをサポートするためのポイント～

五つの力	何が大事か	そのための工夫
体感する力 自然の素晴らしさや環境の大切さを感じ取る力	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を高める。 ○一過性で終わらせない。 ○気付きや発見を大切にす 	<ul style="list-style-type: none"> ○見る・触れる・手を動かす（実験、工作等）など、興味を引きながら楽しめる要素を取り入れ、関心を高める。 ○自然にふれ合うコツを学んでもらう（虫への抵抗感をなくすことや、安全なふれ合い方を知ってもらうことなど）。 ○学習の最後に振り返りの機会を設けることで、学習者同士で思い出を共有し、記憶に残る体験とする。 ○日常的に見る・使用する物を工作等で作って持ち帰る、親子で参加し保護者にも体験の方法を学んでもらうことにより、家庭での振り返りや継続的な体験につなげる。 ○同じ場所へ何度も出かけることで、季節の変化を五感を使って感じとれるようにする。 ○学習者の気付きを大切にし、発見の楽しさや嬉しさを知的好奇心につなげる。
理解する力 私たちの活動が環境に影響を与えていることを、自分のこととして捉える力	<ul style="list-style-type: none"> ○単なる知識でなく、自分のこととして捉える。 ○学んだことを表現することで、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見る・触れる・手を動かす（実験、工作等）ことにより、興味を引きながら環境問題の仕組みを分かりやすく伝える。 ○身近な環境問題に関する問いかけやクイズを交えることで、自分のこととして理解する。 ○自分にできること（エコアクション）は何かと問い掛けて発言を促すとともに、他の学習者と議論し、共有することにより、多くのエコアクションがあることに気付き、行動意欲や更なる学習意欲につなげる。 ○学んだことを言葉や絵などの方法で表現することを通して、学習者自身の理解を深める。
探究する力 環境問題を多面的に考察し、その本質や解決策を見つけ出す力	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・経験を高める。 ○新たな課題を発見し、自ら深掘りする力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心を持った課題について、学習者が主体となって議論しながら調査・研究することにより、知識・経験を主体的に高める。 ○学習者同士の対話や、豊富な知識・経験を持つ人からのサポートにより、多面的に物事を捉えることができるように促す。 ○成果を披露する発表会を開催することで、調査・研究を振り返り、新たな気付きや課題の発見につなげるとともに、継続的な探究の意欲を高める。
活用する力 環境を守るために必要な知識やスキルを自ら身に付け、活かす力	<ul style="list-style-type: none"> ○学びを実践につなげる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な課題について、課題を有する企業等の現場調査や担当者とのディスカッションを交えながら検討することにより、探究すべきことや制約、実現性など様々な視点から物事を考える力や、これまで習得した知識やスキルを社会で活用する力を養う。 ○検討の成果について、企業等から評価を受けることなどにより、取組の成果を実感できるようにする。 ○学習者が関心を持った社会的課題の解決に向けて、継続した活動ができるように、無理をさせ過ぎないようにするなどのサポートを行う。
共働する力 共に未来を創り出すために、みんなとつながる力	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な主体とつながり、学習・活動の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共働しようとする主体が、事前にヒアリングを綿密に行うなどにより、それぞれのニーズやノウハウを詳細に把握するとともに、信頼関係を構築する。 ○多様な主体が意見交換する場を設けることで、主体同士の交流から、連携・協働へと発展させる。
（共通）	<ul style="list-style-type: none"> ○より効果的な学習・活動に向け、事後に成果や課題の抽出を行い、改善を図る。 ○様々な機会を環境学習等の場として活用する。 	